

予防接種の情報提供について

慶應義塾大学商学部
吉川肇子(きっかわとしこ)

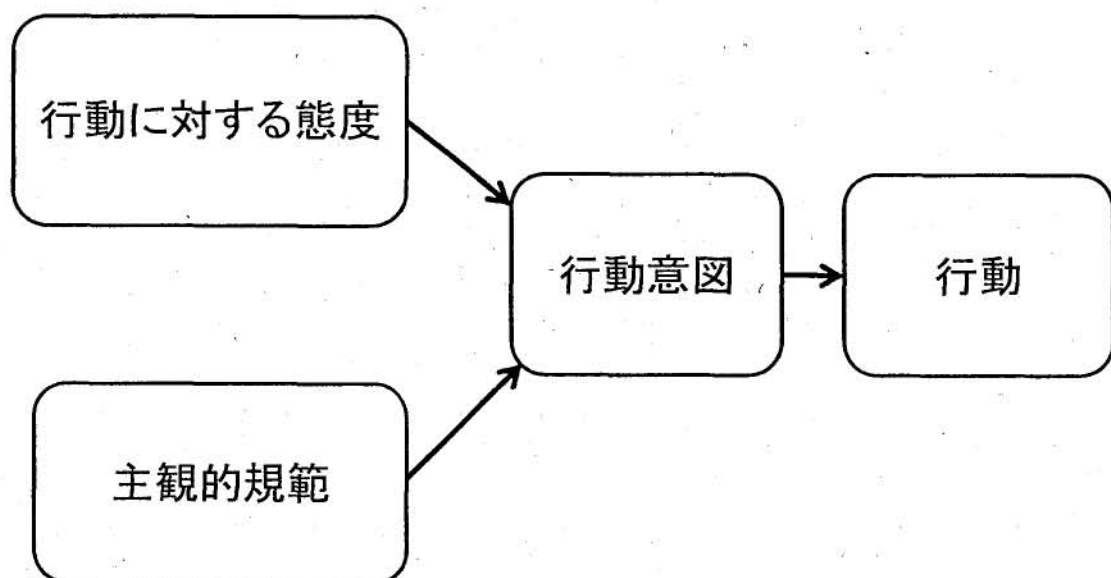
子供を対象とした予防接種の 情報提供

- 強み
 - 対象が限定的
 - 保護者にアクセスする機会が比較的多い
 - 保健所
 - 小児科
 - 育児雑誌、など
- 考慮しておく点(過去の研究より)
 - 小児科医への親の信頼は高いが、一定数信頼していない親がいる
 - 文字情報だけでなく、口頭での説明を求める親が多いが、現実には10秒程度の説明しか行われていない
 - わかりやすいパンフレットは好意的に受け取られるものの、両親の理解度をそれほど上げない
- 紙媒体の啓発のみでは限界があるのでは?
- 医療従事者の話し方(接種直前)、およびそれ以前の情報提供手法を検討する必要性

「強み」を利用した 有望と思われる手法

- 集団討議法
 - 実行率：講義形式<集団討議形式
 - 「乳児に肝油を与える」ことを主婦にさせる
 - 実行率(2週間後)
 - » 講義方式(20%) < 集団決定方式(45%)
 - 長期にわたって実行率が維持される
 - » 4週間後 55% < 85%
- 手続き公正 (procedural justice)の理論
 - 発言の機会 (voice) があると、参加者の満足や公正感が高まる
 - 必ずしも自分の意見が決定に反映されなくてもよい
- 合理的行為(reasoned action)の理論
 - 行動を起こすかどうかを規定するのは行動意図であり、その意図を規定するのは、態度と主観的規範(社会的な期待)

合理的行為の理論(Theory of Reasoned Action)の概略：
態度と行動の不一致を説明



「自分で考えてもらう」ことの重要性

- 接種理論(inoculation theory)
 - 自明の理に近い信念は、説得されやすい
 - 例:リサイクルすることは環境に良い
 - 「リサイクルがかえって環境に負担をかけている」という論者が出てくると、意見変化しやすい
 - 予め弱い反論を聞かせておくと(免疫措置)、説得されにくくなる
 - 例:「ペットボトルをリサイクルするには製造単価の4倍近くの費用がかかるという人もいます」
 - 上記2つの知見からの示唆
 - 自発的思考を誘発することが重要

自発的思考を誘発する手法の例

- 反論(リスクについて)も伝えておく
- 修辞疑問文(反語)をメッセージ中に挿入する
 - 例:「予防接種をしなくても、一生はしかにかからないでいられるでしょうか？」
 - 単なる疑問文では効果がない
 - 例:「予防接種について、皆さんで話し合いませんか？」
- 事前予告(forewarning)を行う
 - 例:「次回は、予防接種が持つ問題についてお話しします」

話合いの手法の例

- オピニオン・リーダーを使うもの
 - 「マス・コミュニケーションの影響の2段の流れ」研究から
 - マス・メディアは、人々の行動に直接影響を与えるのではなく、オピニオン・リーダーを通して影響を与える
 - 事例1: 店頭販売「広告で宣伝していた〇〇」
 - 事例2: 雑誌の主婦モニターレポート
- 口コミの影響
 - 情報伝達の速度が速く、広範に伝わる

予防接種に関する リスク・コミュニケーションの例

- 英国のMMRワクチン騒動(1998)
 - BSE(1996)問題で政府への信頼が低下
 - 掲載誌が権威あるものであった
 - 我が子の病気という不合理な事象について、妥当に見える説明を与えた
- 子供にワクチンを受けさせるかどうかというシナリオ実験で、親にオMISSION・バイアスが見られる
 - Omission bias: 行動する方が不行動よりも後悔が大きい
 - →不行動(不接種)を選ぶ
 - 特に新規のワクチンに対してオMISSION・バイアス大
- バンドワゴン効果が見られた研究もあり
 - 「誰も受けさせていますよ」というと接種率向上
 - 利他的な行動を取る人にはより効果的

保坂委員 提出資料



乳幼児、小・中学生等の予防接種
 (18歳以下の年齢の方が対象です)

種目	注意	3か月	6か月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	18歳
集団接種 結核 (BCG)	●毎月、集団接種で実施。 ●直接、BCG接種を1回。	①	①	① (生後5か月まで無料)													
個別接種 三種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風)	●1期初回:20~56日までの間隔で3回。 ●1期追加:初回完了後1年~1年半に1回。 ●2期:二種混合(ジフテリア・破傷風)で1回。	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
ポリオ (急性灰白髄炎)	●5月/10月のみ実施。 ●41日以上の間隔で2回。 ●スPOINTで飲むワクチンです。	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
麻しん風しん混合	●1期:1歳~1歳11か月までに1回。 ●2期:小学校就学前の1年間に1回。 (平成16年4月2日~平成17年4月1日生まれの方) ●3期:中学1年生に相当する年齢の方 (平成9年4月2日~平成10年4月1日生まれの方) ●4期:高校3年生に相当する年齢の方 (平成4年4月2日~平成5年4月1日生まれの方)	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①	①
日本脳炎	●1期:6か月(標準年齢は3歳)~7歳5か月 接種回数:3回 ●2期:9歳~12歳11か月 接種回数:1回																

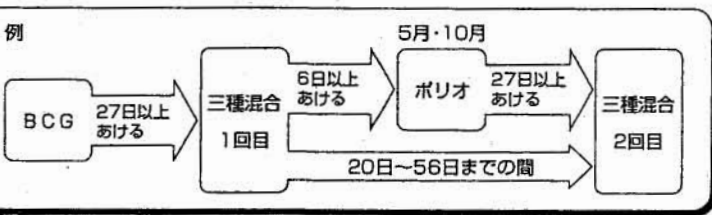
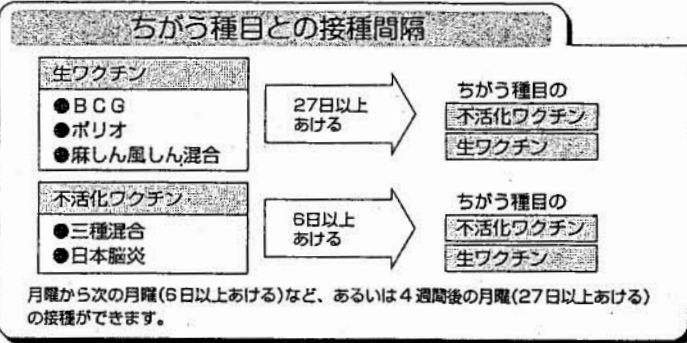
標準年齢 (数字は接種回数です)

対象年齢 (標準年齢外でも、無料で接種できる期間)

麻しん風しん混合種を受けたい方は対象の接種

お知らせを郵送します

現在、日本脳炎予防接種については、積極的な勧奨を行っていません。今後変更がありましたら、ホームページ等でお知らせします。



標準年齢と対象年齢

予防接種には予防する病気やワクチンの性質上最適な接種年齢があり、それらを示したものが「標準年齢」です。したがって予防接種はこの標準年齢内に受けることが大切です。お子さんは体調をくずしやすく他にもいろいろなき事情でやむをえず標準年齢内に受けられないこともあります。その場合でも対象年齢内であれば無料で接種できますので、対象年齢内には接種を済ませましょう。対象年齢外になると有料接種になります。

接種年(月)齢について一例え、平成22年7月8日生まれのお子さんは、平成22年10月7日に満3か月になり、三種混合、ポリオ(5月と10月のみ実施)が受けられます。また、麻しん風しん混合1期の接種期間は平成23年7月7日(1歳の誕生日の前日)から平成24年7月6日(2歳の誕生日の前日)までとなります。

「予防接種と子どもの健康」(小冊子)について

予防接種を正しい知識を持って安全に受けていただくために、「予防接種と子どもの健康」という小冊子があります。これは予防する病気の説明やワクチンの特徴・副反応などをわかりやすくまとめたものです。予防接種を受ける前には必ずこの小冊子や市からの説明書を読んで予防接種の内容を理解してください。

八王子市では母子健康手帳と同時にお渡ししています。お持ちでない方は保健センターへご連絡ください。

麻しん風しん混合予防接種について

予防接種法施行令の一部改正に伴い、平成20年4月から麻しん風しん混合ワクチンの予防接種の対象年齢が追加されました。今までの第1期と第2期との2回接種に加え、補足的接種として5年間(平成20年度から平成24年度まで)、第3期として中学1年生に相当する年齢の方と、第4期として高校3年生に相当する年齢の方が対象となります。

予防接種の通知

予防接種は、接種当日に住居登録してある区市町村で受けることになります。小学校入学前八王子市に住居登録や外国人登録のあるお子さんは、各予防接種の種目ごとに新たに標準年齢に達する月の月上旬に通知書(お知らせ)を郵送します。ただし、個別接種でも実施時期が限定されるポリオ(5月・10月)は、お子さんが初めて接種する機会が来た時に郵送します。

なお、通知は各予防接種の種目ごとに1回だけです。何回も続けて受けるもの(ポリオ/三種混合)は受け忘れのないように注意してください。

小学生に通知する学年

◆二種混合(2期)→小学校6年生

また小学校に通学し、二種混合(2期)の標準年齢になるお子さんには、学校から通知書(お知らせ)が渡されますのでそれをお読みになり、個別予防接種協力医療機関に予約のうえ接種を受けてください。

※現在、日本脳炎の個別通知は郵送していません。

市外から転入された方へ

八王子市以外の区市町村から転入された場合、転入届を出した時点で、お子さんがこれから受けようとしている予防接種の標準年齢にすでに達している場合などは、その予防接種の通知書(お知らせ)は郵送されません。この場合は、転入届を出した後に個別接種協力医療機関に予約のうえ「母子健康手帳」を持って、お出かけください。

また結核(BCG)は、集団接種となりますので、日時と会場を保健センターに確認のうえ「母子健康手帳」を持って、お出かけください。

なお、予約はそれぞれの個別接種協力医療機関または結核(BCG)接種会場に用意してあります。

5月第3日曜日は「市民健康の日」です。10健康フェスタは、平成22年5月16日(日)富士森陸上競技場で開催されます。

DT 二種混合(ジフテリア・破傷風)第2期予防接種のお知らせ

対象年齢：11歳～12歳11か月(13歳の誕生日の前日まで)

(例)平成10年4月20日生まれのお子さんの場合は平成23年4月18日まで

接種当日対象年齢内で八王子市に住民登録(外国人登録)があるお子さんが無料で受けられます。

小学校6年生は、二種混合第2期予防接種の標準年齢になります。このお知らせをお読みになり、お子さんの体調が良い時に個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)に予約をして、二種混合予防接種第2期の接種を受けましょう。
母子健康手帳の接種記録を確認してください。「DT」ワクチンの記録があり、11歳になってから、すでに接種済みの場合は接種不要です。対象年齢内(11～12歳11か月)で接種は1回です。この接種費用は無料です。

1. 予防する病気の特徴

【ジフテリア】 ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。主にのど・鼻に感染し高熱・のどの痛み・犬吠様の咳・嘔吐などの症状があり、偽膜を形成して窒息死することがあります。発病2～3週間後には心筋障害や神経麻痺を起こすことがありますので注意が必要です。

【破傷風】 破傷風菌はヒトからヒトへ感染するのではなく、土中にいる菌が傷口から体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、口が開かなくなったり、けいれんを起こしたり、死亡することもあります。土中に菌がいるため感染機会は常にあります。

2. 接種回数 標準年齢(学年) 小学校6年生 ⇒ 1回接種

*下記の表を参考ください。

第1期 三種混合(ジフテリア・破傷風・百日咳)3回 + 追加接種1回

7歳半になるまでに接種をする。

*基礎免疫をつけるための接種です。

第2期 二種混合(ジフテリア・破傷風)
接種は1回のみです。

小学6年生頃接種。(11歳～12歳11か月まで)

*基礎免疫を強化するための接種です。

6年生での二種混合(ジフテリア・破傷風)予防接種は、幼児期の三種混合(ジフテリア・百日咳・破傷風)第1期の接種によりすでに獲得している基礎免疫への追加が目的です。基礎免疫ができていないと十分な予防効果が期待できませんので、もし、幼児期の第1期の接種が完了していない場合は、まず基礎免疫をつけることが大切です。基礎免疫を作る場合は最初の1回を除いて有料になりますので医師に相談してください。

二種混合第2期の予防接種の対象年齢は、12歳11か月までですが、中学1年生になると麻しん風しん混合第3期の予防接種の対象年齢になりますので、接種時期が重ならない小学6年生のうちに接種を済ませておくことをおすすめします。

3. 副反応

注射部位の発赤・腫脹・しこりなどの局所反応が主です。これは免疫がついているから起こる現象です。なお、しこりは少しずつ小さくなりますが数週間残ることもあります。また、通常高熱は出ませんが、接種後24時間以内に37.5℃以上になった子が約0.1%あります。

以上のように重篤な副反応はありませんが、万一このほかに何らかの異常が強く出た場合(けいれん・高熱など)は、医師の診察を受け保健センターまでご連絡ください。万一、予防接種法に基づく定期の予防接種を受けて重篤な健康被害が発生した時には、予防接種法の規定により健康被害に対する給付が行われます。

4. 予防接種の受け方 *予診票は医療機関にあります。「母子健康手帳」を持参しましょう。

(接種前の注意)

- ① 予防接種の必要性を理解し、接種を希望することが大切です。
- ② 接種を受けようとする個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)に、予約をしてください。
- ③ 接種の前日は入浴し、当日は健康状態を確認して清潔な衣服を着せてください。
- ④ 接種当日は、「母子健康手帳」を持ち、医師の質問に答えられる保護者の方が、お子さんと一緒に、予約した医療機関に行ってください。*医療機関で「予診票」を受け取り、保護者が責任を持って記入してください。
- ⑤ 接種の記録を確認しましょう。

* 持参した母子健康手帳の「予防接種の記録」欄へ、接種医師が記入します。また「母子健康手帳」の無い方は「予防接種済証」を医療機関で受け取り過去の記録と一緒にしておいてください。

大切な接種の記録は自己管理をお願いいたします。

(接種後の注意)

- ① 接種した部分を、軽く押さえる程度にして、もむ必要はありません。
- ② 接種当日は激しい運動を控え、接種部分を強く擦らなければ入浴は差し支えありません。
- ③ 万一何らかの異常(けいれん・高熱など)が強く出た時は医師の診察を受け、保健センターに連絡してください。

5. 予防接種が受けられないお子さん

- ① 明らかに発熱(37.5℃以上)している子
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな子
- ③ 接種する接種液の成分により、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな子
- ④ 麻しん(はしか)・風しん・水ぼうそう・おたふくかぜにかかり、治ってから4週間を経過していない子、またはこれらの病気に感染している確率の高い子
- ⑤ 麻しん(はしか)・風しん・ポリオ・BCG・水ぼうそう・おたふくかぜなどの予防接種を受けてから27日以上または日本脳炎・インフルエンザ・B型肝炎などの予防接種を受けてから6日以上を経過していない子
- ⑥ その他医師が不適当と認める子

6. 医師と相談が必要なお子さん

- ① 心臓血管系・腎臓・肝臓・血液疾患や発育障害等の基礎疾患が明らかにある子
- ② 前回の予防接種で2日以内に発熱・全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった子
- ③ 接種する接種液の成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある子
- ④ 今までにけいれんの症状を起こしたことがある子
- ⑤ 今までに免疫不全の診断がなされている子

予診票は同封していません。接種を受ける医療機関で接種当日お渡しします。

八王子市

三種混合(D ジフテリア・P 百日せき・T 破傷風) 予防接種のお知らせ

対象年齢: 生後3か月(3か月の誕生日の前日)～7歳5か月(7歳6か月の誕生日の前前日)

お子さんが生後3か月になりますと、三種混合予防接種の対象年齢になります。三種混合予防接種は個別接種です。感染症から子どもを守るために予防接種は非常に効果の高い手段です。このお知らせと小冊子「予防接種と子どもの健康」(母子健康手帳と同時に同封しています。)をお読みになり、予防接種の必要性をよく理解して、お子さんの体調が良いときに「母子健康手帳」を持って個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)で予防接種を受けましょう。

接種の間隔は予防接種法で定められています。接種の効果を高めるためにも間が空き過ぎないように、特に1期初回の1回目と2回目、また2回目と3回目はいづれも56日を超えないように注意してください。お子さんの予防接種スケジュールを立てて計画的に接種をするようにしましょう。標準年齢(予防効果と安全性から接種を受ける望ましい時期のこと)で接種を受けることが大切ですが、対象年齢内(7歳5ヶ月まで)でしたら接種は無料です。

● 予防する病気の特徴

- ジフテリア⇒ 菌の飛沫感染により高熱・のどの痛み・犬吠様の咳・嘔吐などで、偽膜を形成して窒息死することがあります。発病後2～3週間後には心筋障害や神経麻痺をおこすことがありますので注意が必要です。
- 百日せき⇒ 菌の飛沫感染により普通のカゼのような症状で始まります。続いて連続的にせき込むようになり乳幼児は呼吸が出来ず、チアノーゼ・けいれん・肺炎・脳症などをおこすことがあります。乳幼児では死亡することもあります。
- 破傷風⇒ 土の中にいる菌が傷口から入り体の中で増えると、口が開かなくなる・けいれんをおこすなど、死亡することもあります。患者の半数は自分では気づかない程度の軽い傷が原因です。日本中どこでも土中に菌はいますので、感染する機会は常にあります。

● 接種年齢と間隔・回数 ※BCG接種を受けてからは、27日以上あけてください。

三種混合(ジフテリア・百日せき・破傷風)

☆対象年齢の生後3か月(3ヶ月の誕生日の前日)～7歳5か月(7歳6か月の誕生日の前前日)まで

【1期初回】1・2・3回目 標準年齢 ⇒ 生後3か月～ 11か月 / *20日から56日までの間隔で3回接種

(※接種間隔が56日を超過した場合は、その回は対象年齢内であっても法定外接種となります。ただし、発熱などの医学的要因により接種できなかった場合はその状態が解消されたあと速やかに接種した場合は、期間外であっても定期接種とみなされます。)

予防接種の効果を高めるために、規定の接種間隔で受けるようにスケジュールをたてましょう。

【1期追加】標準年齢 ⇒ 1歳6か月～2歳5か月 / *3回目を接種後1年～1年6か月の間に1回接種
八王子市に住民登録(外国人登録)があり、対象年齢内(7歳5ヶ月まで)のお子さんは無料で接種できます。7歳5か月を超えると任意接種(自費の接種)となり、接種する場合は有料になります。

● 注 意

標準年齢内に接種することが大切ですが、それを過ぎて対象年齢内であれば無料で接種できますので、体調の良いときなるべく早く受けましょう。もしも決められた間隔以上にあいてしまった場合でも、受け直しはせずに規定の回数を超えないように接種してください。

三種混合の通知はこの1回だけなので特に1期追加は受け忘れの無いように注意してください。

● 予防接種の受け方 *予防接種はお子さんの体調のよい時に受けるのが原則です。

【接種前】

- ① 三種混合予防接種の必要性を理解し、接種を希望することが大切です。このお知らせ、小冊子をよくお読みください。
- ② 接種を受けようとする個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)に予約をしてください。
- ③ 接種の前日は入浴し、当日は保護者が健康状態を確認して清潔な衣服を着せてください。
- ④ 医師の質問に十分答えられる方が、予約した個別接種協力医療機関にお子さんを連れて行ってください。予診票には、平熱を記入する欄があります。日頃のお子さんの体温を知っておくようにしましょう。
*「母子健康手帳」を持参し、これまでの予防接種記録を医師に提示できるようにしてください。
- ⑤ 「予診票」は個別接種協力医療機関で受け取り、保護者が責任を持って記入してください。

【接種後】

- ① 注射した部分は、軽く押さえる程度にして、もむ必要はありません。
- ② 「母子健康手帳」の「予防接種の記録」欄へ、接種医師に記入してもらってください。
* 予防接種の記録は大切に保管しましょう。
- ③ 接種当日は激しい運動を控え、注射した部分を強くこすらなければ入浴は差し支えありません。

● 接種が受けられないお子さん

- ① 明らかに発熱している子(37.5℃以上)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな子
- ③ 接種する接種液の成分により、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな子
- ④ 麻しん(はしか)・風しん・水ぼうそう・おたふくかぜにかかり、治ってから4週間を経過していない子、またはこれらの病気に感染している確率の高い子
- ⑤ 麻しん(はしか)風しん混合・麻しん単独・風しん単独・ポリオ・BCG・水ぼうそう・おたふくかぜなどの予防接種を受けてから27日以上、または日本脳炎・インフルエンザ・B型肝炎などの予防接種を受けてから6日以上を経過していない子
- ⑥ その他医師が不適当と認める子

● 医師と相談が必要なお子さん

- ① 心臓血管系・腎臓・肝臓・血液疾患や発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな子
- ② 前回の予防接種で2日以内に発熱・全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった子
- ③ 接種する接種液の成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある子
- ④ 今までにけいれんの症状を起こしたことがある子(主治医の判断が必要な場合もあります。)
- ⑤ 今までに免疫不全の診断がなされている子

● 副 反 応

主な副反応は、発赤、腫脹、硬結の局所反応が最も多く認められます。また、全身反応として発熱・不機嫌がみられることもあります。いずれも一過性で2～3日中に消失します。また、アルミニウムゲルを含む沈降ワクチンのため接種した部位の硬結が1ヶ月くらい残存することもあります。局所反応は、接種回数を重ねるごとに増加します。通常見られない副反応として、接種部位を中心に上腕全体にまで及ぶ高度の発赤、腫脹が2～3日後にみられることがあります。局所反応が著しい場合は、接種液に対するアレルギー、過敏症が考えられますので、接種した医療機関にご相談ください。また次回からの接種には注意が必要です。必ず前回の接種時の反応について医師に申し出てください。

☆なお万が一のほかに、何らかの異常(けいれん・高熱など)が強くなった場合には、医師の診察を受け保健センターまでご連絡ください。万一、予防接種法に基く定期の予防接種を受けて重篤な健康被害が発生した時には、予防接種法の規定により健康被害に対する給付が行われます。

5月と10月に実施

* 接種当日は「母子健康手帳」を持参しましょう。

八王子市

ポリオ(急性灰白髄炎)予防接種のお知らせ

対象年齢:生後3か月(3か月の誕生日の前日)~7歳5か月(7歳6か月の誕生日の前日)

お子さんが生後3か月以上になりますと、ポリオ予防接種の対象になります。ポリオ予防接種はワクチンの特殊性から接種を行なう時期を決めて行います。八王子市では5月と10月の年2回個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)で行います。このお知らせと小冊子「予防接種と子どもの健康」(母子健康手帳と同時に渡しています。)をお読みになり、なるべく標準年齢内で体調が良いときにポリオ予防接種を受けましょう。

「予診票」は個別接種協力医療機関に置いてあります。「母子健康手帳」を持って、個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)で予防接種を受けましょう。

● 予防する病気の特徴

ポリオ(急性灰白髄炎) ⇒ ポリオウィルスはヒトからヒトへ感染します。感染した人の便中に排出されたウィルスが口から入り咽頭や腸で感染増殖します。ほとんどの例はまったく無症状の不顕性感染型ですが、ウィルスが血液を介して脳・脊髄に感染し麻痺を起こすことがあります。感染した人の5から10%はかぜ様の症状・発熱に続き頭痛・嘔吐があらわれ麻痺が出現して一部の人は永久に残ります。また呼吸困難により死亡することもあります。日本では約30年前まで流行がりましたが、予防接種の効果で現在は自然感染は報告されていません。しかしアフリカ・東南アジアの一部地域ではポリオが発生しているため、世界的にはどこでもポリオワクチンの接種を続けていく必要があります。お子さんにポリオワクチン接種を受けさせましょう。

● 接種年齢と回数

【ポリオ】標準年齢 ⇒ 生後3か月~1歳5か月 / 接種回数 ⇒ 2回
 ☆1回目と2回目の間隔は最低41日以上あけることになっていますので、八王子市の場合には、たとえば1回目を5月に接種した子の2回目の接種は10月になります。また、10月に受けられなかった場合は5月に受けてください。ポリオは間隔があいてしまっても構いませんので必ず2回接種を受けるようにしましょう。
 ☆対象年齢内の生後3か月(3か月の誕生日の前日)~7歳5か月(7歳6か月の誕生日の前日)まで接種費用は無料です。八王子市に住民登録(外国人登録)があり、対象年齢内のお子さんは無料で接種できます。ポリオ予防接種は合計2回ですが、2回目のお知らせはないため、受け忘れのないようにしましょう。
 7歳6か月を過ぎると任意接種となり、八王子市内の個別接種協力医療機関では受けられません。

● 注意

ポリオワクチンはスポイトで飲む生ワクチンで、I・II・III型の3つのタイプのウィルスが混ざっています。しかし1回飲んだだけでは3つのうち1つか2つの型だけの免疫しかつかないことがありますので、2回目を飲むことによって1回目のときにつかかなかった型に対して免疫ができて予防体制ができて上がります。またスポイトで飲むワクチンなので、飲んだ後に吐くこともあります。飲んですぐに吐いた場合にはもう一度飲ませますが、飲んでから30分以上たっていれば免疫効果はあります。また、ひどい下痢をしていると免疫がつきにくいので、下痢が治って普段どおりの状態になってから受けましょう。

● 予防接種の受け方 * 予防接種はお子さんの体調のよい時に受けるのが原則です。

【接種前】

- ①ポリオ予防接種の必要性を理解し、接種を希望することが大切です。お知らせ、小冊子をよくお読みください。
- ②接種を受けようとする個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)に予約をしてください。
- ③接種の当日は健康状態を確認して、医師の質問に十分答えられる方が、予約した個別接種協力医療機関にお子さんを連れて行ってください。
*「母子健康手帳」を持参しこれまでの予防接種記録を医師に提示できるようにしてください。
- ④「予診票」は個別接種協力医療機関で受け取り、保護者が責任を持って記入してください。

【接種後】

- ①飲んだ後吐かないように、30分間は飲食物を与えないでください。
 - ②「母子健康手帳」の「予防接種の記録」欄へ、接種医師に記入してもらってください。
*予防接種の記録は大切に保管しましょう。
 - ③接種当日は激しい運動を控えてください。また入浴は接種当日からできます。
- *ポリオワクチン接種後、他のワクチンを接種するまでは27日以上空ける必要があります。BCGなど接種期間の短い予防接種が受けられなくなることをないように受ける順番に注意してください。
接種を受けた子の便中には1ヶ月間程度ワクチンウィルスが排出されますので、オムツのとりかえ、便を処理後の手洗いは石鹸でしっかり行ないましょう。

● 接種が受けられないお子さん

- ①明らかに発熱している子(37.5℃以上)
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな子
- ③今までに免疫不全の診断がなされているまたはその疑いのある子
- ④接種する接種液の成分により、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな子
- ⑤接種当日に下痢をしている子 ⇒ 下痢が治ってから受けましょう
- ⑥麻しん(はしか)・風しん・水ぼうそう・おたふくかぜにかかり、治ってから4週間を経過していない子、またはこれらの病気に感染している確率の高い子
- ⑦麻しん(はしか)・風しん混合・麻しん単独・風しん単独・BCG・水ぼうそう・おたふくかぜなどの予防接種を受けてから27日以上、または三種混合・二種混合・日本脳炎・インフルエンザ・B型肝炎などの予防接種を受けてから6日以上を経過していない子
- ⑧その他医師が不適当と認める子

● 医師と相談が必要なお子さん

- ①心臓血管系・腎臓・肝臓・血液疾患及び発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな子
- ②前回の予防接種で2日以内に発熱・全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった子
- ③接種する接種液の成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある子
- ④今までにけいれんの症状を起こしたことがある子(主治医の判断が必要な場合もあります。)

● 副反応

ワクチンに使用されているウィルスは弱毒化されており安全ですが、服用後体内で増えるため、約450万人の経口接種に1人程度の極めてまれな頻度で、ウィルスが脳脊髄に達して麻痺を生ずることがあります。重症副反応ではありませんが、ワクチン接種後2~3日後までに下痢や嘔吐、発熱がみられることがあります。またワクチンを飲んだ人からは15~37日間(平均26日間)にわたりウィルスが便中に排泄されます。このウィルスがワクチンを受けていない人などに感染して麻痺を起こすことがあります。その頻度は一定していませんが550万人に1人程度でまれなものです。このため、ワクチン接種後の子のオムツの取り扱いには、注意してください。
 ☆万一、予防接種法に基く定期の予防接種を受けて重篤な健康被害が発生した時には、予防接種法の規定により健康被害に対する給付が行われます。ワクチン接種者からの2次感染についても健康被害救済制度があります。

*昭和50~52年生まれの方は、ポリオワクチンを接種していても、他の年齢層に比べてポリオの免疫を保有している方の割合が低いので、ポリオウィルス常在国に渡航するときは、ワクチン接種が必要です。

また、お子さんがポリオの予防接種を受けるときは、15~37日間(平均26日間)便中にウィルスが排泄されますので、オムツ替えの際は、必ず十分な手洗いを行うなどの感染予防することが必要です。接種機会があれば未接種の親は、子どもが接種を受ける時に、なるべく同時期に接種を受けるようお勧めします。ただし、この場合は任意接種となり自費となります。成人の方がポリオ予防接種を受ける場合は、接種を実施する医療機関について保健センターへお問合せください。

「予診票」は個別接種協力医療機関に置いてあります。

*接種当日は「母子健康手帳」を持参しましょう。

八王子市

MR第1期 麻しん風しん混合予防接種のお知らせ(第1期)

満1歳になったら、麻しん風しん混合ワクチンの予防接種を受けましょう。

麻しん(はしか)、風しんは予防接種で防ぐことができます。

このお知らせをよく読んで、お子さんの体調のよい時に、早めに接種を受けるようにしましょう。

●予防する病気の特徴

麻しん(はしか)	麻疹ウィルスの空気感染・飛沫感染などによっておこり、伝染力が強く、かかると重症化します。主な症状は発熱・せき・鼻汁・めやに・発しんで、3~4日間は38℃位の熱で一時的に高熱が続き、39℃~40℃の高熱と発しんが出てきます。高熱は3~4日で解熱し、次第に発しんも消失します。しばらく色素沈着が残ります。主な合併症は気管支炎・肺炎・中耳炎・脳炎です。日本では現在でも、わずかですが死亡するお子さんがいます。
風しん(三日ばしか)	風疹ウィルスの飛沫感染によっておこり、軽いかぜ症状で始まります。主な症状は発しん・発熱・後頭部リンパ節腫脹です。発しんも熱も約3日間で治りますので「三日ばしか」ともよばれていますが、大人になってからかかると一般に重症になりやすく、3日で治らないことが多いものです。また妊婦が妊娠早期にかかると先天性風しん症候群と呼ばれる児(心奇形・白内障・聴力障害など)が生まれる可能性が高くなります。

●接種年齢と回数 ☆平成18年4月から2回接種(第1期・第2期)にかわりました。

麻しん風しん混合(第1期) 満1歳~1歳11か月 / 接種回数 ⇒ 1回

☆ 対象年齢の満1歳(1歳の誕生日の前日)~1歳11か月(2歳の誕生日の前日)

八王子市に住民登録(外国人登録)があり、対象年齢内のお子さんは無料で接種できます。

※万一、やむをえない事情で対象年齢内に接種できなかった場合は保健センターへお問合せください。

【麻しん風しん混合(第2期)】 小学校入学前の1年間で対象期間です。 / 接種回数⇒1回

* 第2期の対象になりましたら、個別に通知をします。

●注意

麻しん(はしか)は1~2歳、風しんは2~3歳になるとかかる子が増えます。保育園などの集団生活に入る前に接種することが大切です。1歳になったらできるだけ早く接種を受けましょう。

麻しん(はしか)、風しんのどちらか一方に罹患した子も麻しん風しん混合ワクチンが接種できます。

ただし、麻しん(はしか)と風しんの両方に罹患した子は接種は不要です。

●予防接種の受け方 *予防接種はお子さんの体調のよい時に受けるのが原則です。

【接種前】

- ①麻しん風しん混合予防接種の必要性を理解し、接種を希望することが大切です。このお知らせや、小冊子「予防接種と子どもの健康」(「母子健康手帳」と同時にお渡ししました。)をよくお読みください。
- ②接種を受けようとする個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)に予約をしてください。
- ③接種の前日は入浴し、当日は保護者が健康状態を確認して清潔な衣服を着せてください。
- ④医師の質問に十分答えられる方が、予約した個別接種協力医療機関にお子さんを連れて行ってください。予診票には平熱を記入する欄があります。日頃のお子さんの体温を知っておくようにしましょう。
*「母子健康手帳」を持参し、これまでの予防接種記録を医師に提示できるようにしましょう。
- ⑤「予診票」は個別接種協力医療機関で受け取り、保護者が責任を持って記入してください。

【接種後】

- ①注射した部分は、軽く押さえる程度にして、もむ必要はありません。
- ②「母子健康手帳」の「予防接種の記録」欄へ、接種医師に記入してもらってください。
* 予防接種の記録は大切に保管しましょう。
- ③接種当日は激しい運動を控え、注射した部分を強くこすらなければ入浴は差し支えありません。

●接種が受けられないお子さん

- ①明らかに発熱している子(37.5℃以上)
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな子
- ③接種する接種液の成分により、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな子
- ④免疫機能に異常のある疾患を有することが明らかな子
- ⑤輸血やガンマグロブリンの注射を受けてから3か月を経過していない子(大量の注射を受けた場合は6ヶ月)
- ⑥卵や抗生物質でアナフィラキシーを起こしたことが明らかな子
- ⑦水ぼうそう・おたふくかぜにかかり、治ってから4週間を経過していない子、またはこれらの病気に感染している確率の高い子
- ⑧ポリオ・BCG・水ぼうそう・おたふくかぜなどの予防接種を受けてから27日以上、または三種混合・日本脳炎・インフルエンザ・B型肝炎などの予防接種を受けてから6日以上を経過していない子
- ⑨その他医師が不適当と認める子

●医師と相談が必要なお子さん

- ①先天性異常、心臓・腎臓・肝臓・血液、脳神経、発育発達の病気、悪性腫瘍など何らかの病気がある子
- ②これまでの予防接種で2日以内に発熱・全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった子
- ③接種する接種液の成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある子
- ④卵や抗生物質でアレルギーを起こすおそれのある子
- ⑤今までにけいれんの症状を起こしたことがある子(主治医の判断が必要な場合があります。)

●副反応

主な副反応は、発熱(接種した者のうち20%程度)や、発しん(接種した者のうち10%程度)です。これらの症状は、接種後5~14日の間に多くみられます。接種直後から翌日に過敏症状と考えられる発熱、発疹、かゆみなどがみられることがありますが、通常1~3日でおさまります。ときに接種部位の発赤、腫れ、硬結(しこり)、リンパ節の腫れ等がみられることがありますが、いずれも一過性で通常数日中に消失します。稀に生じる重い副反応としては、アナフィラキシー様症状(ショック症状、じんましん、呼吸困難等)、急性血小板減少性紫斑病(紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血等)、脳炎及びけいれん等が報告されています。

☆ 通常の反応のほか万が一何らかの異常(けいれん・高熱など)が強く出た場合には、医師の診察を受け保健センターまでご連絡ください。

万一、予防接種法に基く定期的予防接種を受けて重篤な健康被害が発生した時には、予防接種法の規定により健康被害に対する給付が行なわれます。

お母さんが妊娠中であっても、お子さんの接種は受けられます。(妊娠中のお母さんは接種できません。)

予診票は同封していません。接種を受ける医療機関で接種当日お渡しします。

八王子市

日本脳炎予防接種(第1期)のお知らせ

対象年齢:生後6か月(6か月の誕生日の前日)~7歳5か月(7歳6か月の誕生日の前日)
3歳に達した時からの標準的な接種年齢です。

日本脳炎の定期接種については、平成17年6月より積極的勧奨を差し控えておりましたが、平成22年4月1日に厚生労働省より3歳のお子さんに対する第1期初回の積極的な勧奨を行うことの方針が示されたので平成19年6月2日~平成19年7月1日生まれの方(平成22年4月1日以降の3歳児)に、このお知らせを送付しています。すでに接種をした方にも送付されますのでご了承ください。

今年度は、ワクチンの供給量が限られることから、3歳児のみ対象にお知らせを送付します。

積極的勧奨が差し控えられた理由はマウス脳による製法の日本脳炎ワクチン(現在は製造中止)と重症の急性散在性脳脊髄炎(ADEM)との因果関係の認定がされたためです。

現在使われているワクチンは平成21年6月に発売された乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンです。主な副反応については販売開始日から6か月間にわたり実施された市販直後調査結果のまとめを下記の副反応欄に記載しているのでお読みください。

● 予防する病気の特徴

日本脳炎ウイルスの感染によっておこる中枢神経(脳や脊髄など)の疾患です。ヒトからヒトへの感染はなく、ブタなどの動物の体内でウイルスが増殖した後、そのブタを刺したコガタアカイエカ(水田等に発生する蚊の一種)などがヒトを刺すことによって感染します。東アジア・南アジアにかけて広く分布する病気です。

ウイルスを持つ蚊がヒトを刺すことによって感染します。症状が現れずに経過する(不顕性感染)場合がほとんど(過去には、100人から1000人の感染者の中で1人が発病すると報告されています)ですが、症状が出る場合には、6~16日間の潜伏期間の後に、数日間の高熱、頭痛、嘔吐などで発病し、引き続き急激に、光への過敏症、意識障害(意識がなくなる)、けいれん等の中枢神経系障害(脳の障害)を生じます。

大多数の方は、無症状に終わりますが、脳炎を発症した場合20~40%が死亡に至る病気といわれています。

● 接種年齢と間隔・回数

【第1期】 6か月~7歳5か月 3歳に達した時からの標準的な接種年齢です。
初回(2回) 6日から28日までの間隔で2回接種
追加(1回) 初回完了後(第1期初回2回目を接種後)おおむね1年後に1回接種

● 接種間隔を過ぎてしまった場合などについて

第1期初回では2回接種しますが、2回目が1回目の接種後6日から28日までの間隔で接種できなかった場合は早めに医療機関で接種してください。

● 予防接種の受け方 *予防接種はお子さんの体調のよい時に受けるのが原則です。

【接種前】

- ① 日本脳炎予防接種の必要性を理解し、接種を希望することが大切です。
- ② 接種を受けようとする個別接種協力医療機関(裏面の一覧表)に予約をしてください。
- ③ 接種の前日は入浴し、当日は保護者が健康状態を確認して清潔な衣服を着せてください。
- ④ 医師の質問に十分答えられる方が、予約した個別接種協力医療機関にお子さんを連れて行ってください。
予診票には、平熱を記入する欄があります。日頃のお子さんの体温を知っておくようにしましょう。
*「母子健康手帳」を持参し、これまでの予防接種記録を医師に提示できるようにしてください。
- ⑤ 「予診票」は個別接種協力医療機関で受け取り、保護者が責任を持って記入してください。

【接種後】

- ① 注射した部分は、軽く押さえる程度にして、もむ必要はありません。
- ② 「母子健康手帳」の「予防接種の記録」欄へ、接種医師に記入してもらってください。
* 予防接種の記録は大切に保管しましょう。
- ③ 接種当日は激しい運動を控え、注射した部分を強くこすらなければ入浴は差し支えありません。

● 接種が受けられないお子さん

- ① 明らかに発熱している子(37.5℃以上)
- ② 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな子
- ③ 接種する接種液の成分により、アナフィラキシーを起こしたことが明らかな子
- ④ 麻しん(はしか)・風しん・水ぼうそう・おたふくかぜにかかり、治ってから4週間を経過していない子、またはこれらの病気に感染している確率の高い子
- ⑤ 麻しん(はしか)風しん混合・麻しん単独・風しん単独・ポリオ・BCG・水ぼうそう・おたふくかぜなどの予防接種を受けてから27日以上、または三種混合・インフルエンザ・B型肝炎・Hib・肺炎球菌などの予防接種を受けてから6日以上を経過していない子
- ⑥ その他医師が不適当と認める子

● 医師と相談が必要なお子さん

- ① 心臓血管系・腎臓・肝臓・血液疾患や発育障害等の基礎疾患を有することが明らかな子
- ② 前回の予防接種で2日以内に発熱・全身性発疹等のアレルギーを疑う症状があった子
- ③ 接種する接種液の成分に対して、アレルギーを起こすおそれのある子
- ④ 今までにけいれんの症状を起こしたことがある子(主治医の判断が必要な場合もあります。)
- ⑤ 今までに免疫不全の診断がなされている子及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる子

● 副反応

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンの市販直後集計結果によると

- 調査期間(2009年6月2日(販売開始)~2009年12月1日)において収集した副反応は238例(345件)でした。
- 最も多い副反応は、発熱でした。
- 重篤な副反応として、発熱3件、アナフィラキシーショック1件、アナフィラキシー反応1件、無菌性髄膜炎1件、白血球数減少1件、関節痛1件、熱性痙攣2件、痙攣2件、顔面神経麻痺1件、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)1件、小脳性運動失調1件、喘息1件の計16件(12症例)を収集しました。転帰はいずれも回復または軽快しています。

☆なお万が一のほかに、何らかの異常(けいれん・高熱など)が強くなった場合には、医師の診察を受け保健センターまでご連絡ください。万一、予防接種法に基く定期の予防接種を受けて重篤な健康被害が発生した時には、予防接種法の規定により健康被害に対する給付が行われます。

麻しん風しん混合予防接種予診票

第1期	第2期	第3期	第4期	特別	☆体温は医療機関で計ります。	
					度	分 (平熱 度 分)
現住所				八王子市		電話
フリガナ						
受ける人の氏名				男	平成 年 月 日生 (満 歳 か月)	
保護者の氏名※				女		
				生年月日		

質問事項 (あてはまる項目を○でかこんでください)	回答欄	医師記入欄
1. 麻しん風しん混合予防接種について市から配られている説明書を読みましたか	はい いいえ	
2. お子さんの発育歴についておたずねします 出生体重 ()g ※3期・4期は未記入でも可 分娩時に異常がありましたか 出生後に異常がありましたか 乳幼児健診等で異常があるといわれたことがありますか	あった なかった あった なかった ある ない	
3. 今日またはここ2～3日で体の具合の悪いところがありますか 症状 ()	ある ない	
4. 最近1か月以内に病気にかかりましたか 病名 ()	はい いいえ	
5. 1か月以内に家族や遊び仲間に麻しん、風しん、水痘、おたふくかぜなどの病気の方がいましたか 病名 ()	はい いいえ	
6. 1か月以内に予防接種を受けましたか 接種名 () 接種日 /	はい いいえ	
7. 生まれてから今までに特別な病気 (先天性異常、心臓、腎臓、肝臓、脳神経、免疫不全症、その他の病気) にかかり医師の診察を受けていますか 病名 ()	はい いいえ	
その病気を診てもらっている医師に今日の予防接種を受けてよいといわれましたか	はい いいえ	
8. ひきつけ (けいれん) をおこしたことがありますか () 歳頃	はい いいえ	
そのときに熱が出ましたか	はい いいえ	
9. 薬や食品で皮膚に発疹やじんましんがでたり、体の具合が悪くなったことがありますか	ある ない	
10. 近親者に先天性免疫不全と診断されている方はいますか	いる いない	
11. これまでに予防接種を受けて具合が悪くなったことがありますか 予防接種名 ()	ある ない	
12. 近親者に予防接種を受けて具合が悪くなった人はいますか	いる いない	
※ 13. 6か月以内に輸血あるいはガンマグロブリンの接種を受けましたか	はい いいえ	
14. (3期・4期の女性のみ) 現在妊娠している可能性 (生理が予定より遅れているなど) はありますか (注) 接種後2か月間は妊娠をさける必要があります	ある ない	
15. 今日の予防接種について質問がありますか	ある ない	

医師の記入欄 ※○で囲む

以上の問診及び診察の結果、今日の予防接種は (可能・見合わせる) 医師署名又は記名押印 ()

保護者に対して予防接種の効果、副反応及び予防接種健康被害救済制度について、説明した。

保護者の記入欄 ※○で囲む

医師の診察・説明を受け、予防接種の効果や目的、重篤な副反応の可能性、予防接種健康被害救済制度などについて理解した上で、接種を希望しますか (希望します・希望しません)

* この予診票は、予防接種の安全性の確保を目的としています。このことを理解の上、本予診票が市町村に提出されることに同意します。

保護者サイン※ ()

使用ワクチン名	接種量	実施場所・医師名
ワクチン名 麻疹風疹混合ワクチン	0.5ml	
Lot No.		
(注) 有効期限がきれていないか確認	接種年月日	平成 年 月 日

※保護者の欄は接種を受ける人が既婚者の場合には、接種を受ける人のサインをしてください。
 ※(注) ガンマグロブリンは、血液製剤の一種で、A型肝炎など感染症の予防目的や重症の感染症の治療目的などで注射されることがあり、この注射を3～6か月以内に受けた方は、麻しんなどの予防接種の効果が十分に出ないことがあります。(市提出用)